

土木部

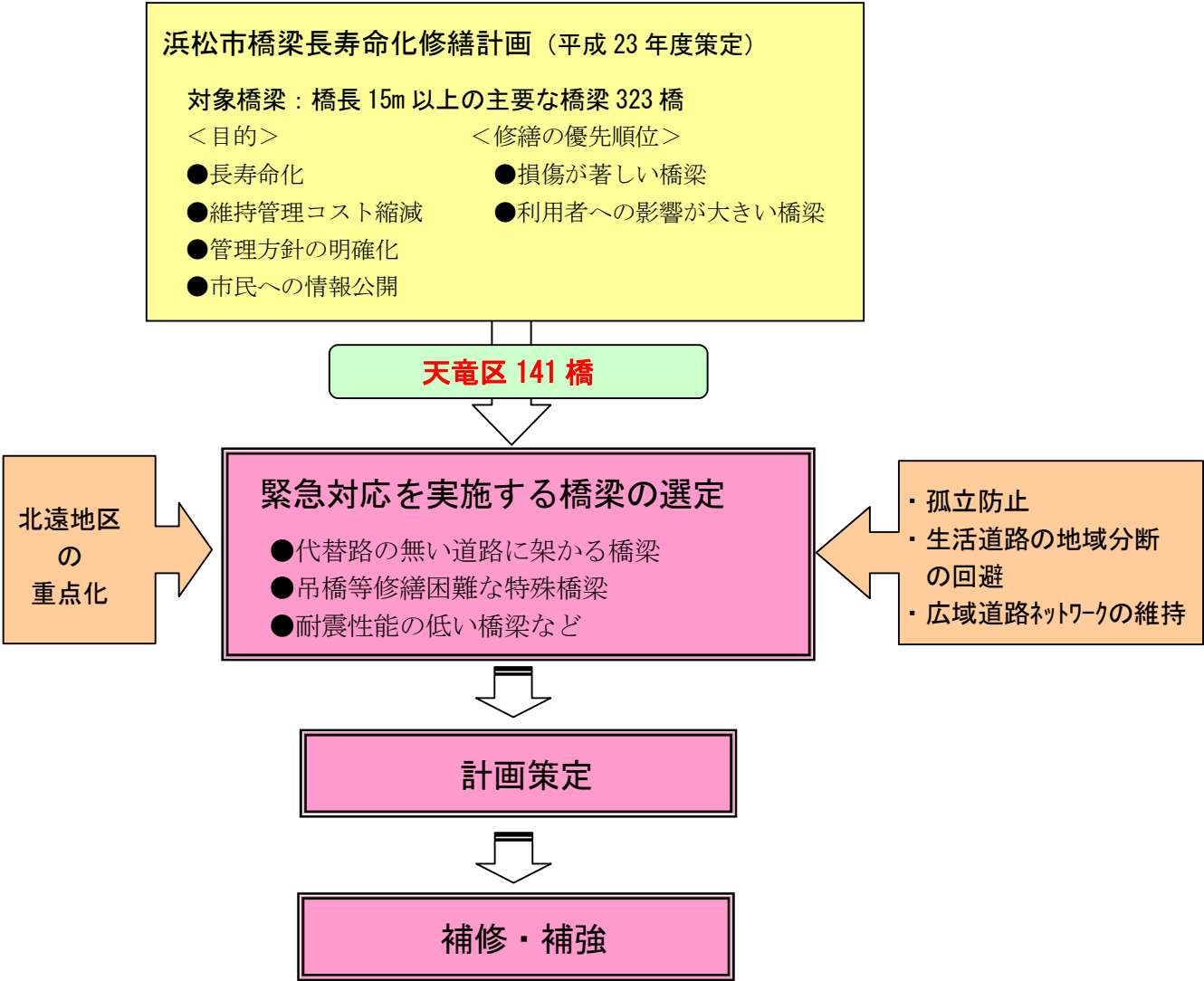
北遠地域橋梁補修補強計画について

土木部 道路課

1 現状と課題

北遠地域は急峻な山地形となっており、一級河川天竜川をはじめとする多くの河川が流下している。集落は河川により形成された谷間や尾根線近くのやや緩傾斜斜面に位置し、これら集落を連絡するよう道路が走っている。地形的な制約からその道路の多くは狭く、また特に谷沿いに発達した集落では、他地区と連絡する地域の生活を支える代替性の無い唯一の道路となっている場合が多い。したがって、既存道路ネットワークの分断は、地域の分断、集落の孤立等に直結し、地域社会に与える影響は極めて大きい。

損傷による通行規制や地震により落橋が生じた場合に地域分断や孤立集落が想定される橋梁に着目し、以下の要領にて早急に緊急対応を実施する橋梁を選定し、北遠地域橋梁補修補強計画を策定する。



暫定津波対策範囲内の橋梁調査に伴う橋梁耐震対策について

土木部 道路課

1 事業の目的

東海・東南海・南海地震の三連動型地震により想定される津波からの避難については、暫定津波対策範囲における津波避難施設整備方針（案）が示され、避難経路の安全確保が重要な課題となっている。

特に沿岸部などの地域においては、避難経路における橋梁の耐震対策を早急を実施する必要がある。そこで津波避難ビルや津波避難タワー・マウンド、内陸部への避難経路の安全性を高めるための短期的な対策として、津波避難時に重要となる優先対策橋梁を選定し、落橋防止システムの設置を実施していく。

2 課題に向けた今後の方向性

落橋防止対策事業（落橋防止システムの設置）の実施

暫定津波対策範囲内の橋梁調査結果として 462 橋の未対策箇所が判明



避難利用度が高く * 近隣に迂回路のない路線の抽出

たとえば人口密度が高い地域から避難が集中する路線をいう。



優先対策橋梁の選定の考え方（※詳細は別紙）

津波避難ビルや津波避難タワー・マウンド、内陸部への避難経路を踏まえながら、橋梁の被災により通行できなかった場合、避難が困難となる地域や箇所を優先する。